

平成22年度協働事業として選定された事業の評価

No	課名	事業名	事業期間	協働の形態 委=委託 実=実行委員会 参=市民参加 共=共催 補=補助	事業費 (千円)	事業実施に向けて				事業実施段階												備考				
						協働相手方	協働開始の時期	協働への呼びかけ	事業目的は明確か	目標を明確にしたか	協働相手選定の理由は明確か	①～⑫														
												行政評価	協働相手評価	1:できなかった N:いいえ	2:どちらかといえばできなかった 4:ある程度できた 5:よくできた	3:どちらかといえばできた	4:ある程度できた 5:よくできた	5:よくできた	6:よくできた	7:よくできた	8:よくできた		9:よくできた	10:よくできた	11:よくできた	12:よくできた
1	議会事務局	声の市議会だより作成委託	4月～3月	委	48	音訳ボランティアグループ 福生いどてんわ	実行	行政評価	Y	Y	Y	4	4	3	4	3	3	4	4	4	4	4	4	3	3.7	
		協働理由	市民活動団体の特性を活かす。	事業の概要	年4回発行の市議会だよりの内容を音訳し、視覚障害者12級の登録者にデイジー方式により音訳したCD版を送付し、議会情報の提供を行う。	課題	対象者が91名いるが、現在の利用者は11名であり利用者の拡大を図る必要がある。当初テープからスタートして、平成21年度からCDに移行したが、デジタル方式そのものが未だ発展途上にあり、試行錯誤の部分がある。																			
2	総務課	平和記念事業	4月～3月	実	381	市民参加	企行	行政評価	Y	Y	Y	4	3	4	4	3	3	3	3	3	4	4	3	3.4	講演会222人参加	
		協働理由	広く市民相互の支えあいを支援	事業の概要	「市民が語る戦後のふっさ・昭和30年代パートⅢ」と題して、市民会館小ホールで実施。講演、座談会、演奏を行った。	課題	企画委員会のメンバーが長年同じメンバーで続けているが、話題性を高めるため多くの市民の参加を呼びかける。																			
3		自主防犯パトロール	4月～3月	参		町会・自治会	実行	行政評価	Y	Y	Y	5	4	4	4	4	4	3	4	3	5	4	3	3.9		
		協働理由	広く市民相互の支えあいを支援	事業の概要	地域の安全を守るため各町会・自治会での自主的なパトロールの実施	課題	全町会・自治会でのパトロールの実施のため、今後安全安心まちづくりの醸成の機運を高める必要がある。(34町会・自治会のうち27団体実施)																			
4		各種防犯活動	4月～3月	補・参	1,214	防犯協会、ボランティア	実相	行政評価	Y	Y	Y	5	4	4	3	5	5	3	5	4	5	5	4	4.3		
		協働理由	広く市民相互の支えあいを支援	事業の概要	福生警察署館内防犯協会に委嘱された防犯活動推進員、女性防犯指導員で、地域安全運動の一環として活動する。	課題																				
5	安全安心まちづくり課	子ども110番の家	4月～3月	参	105	市民参加	企行	行政評価	Y	Y	Y	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	3	4.7	登録者 1,190軒	
		協働理由	広く市民相互の支えあいを支援	事業の概要	子供が身の危険を感じたときに、助けを求めることの出来る緊急避難場所として民家や商店等を指定し、子どもを犯罪から守る。	課題																				
6		交通安全推進指導委託	4月～3月	委	7,884	交通安全推進委員会、町会・自治会	企行	行政評価	Y	Y	Y	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5.0		
		協働理由	広く市民相互の支えあいを支援	事業の概要	福生市交通安全推進委員会、福生市町会長協議会へ交通安全の推進を委託し、更なる交通事故の減少を図る。	課題	特になし。																			
7		自主防災組織の運営	4月～3月	補	5,691	町会・自治会	企行	行政評価	Y	Y	Y	5	5	5	5	5	5	4	4	5	5	4	4	4.8		
		協働理由	広く市民相互の支えあいを支援	事業の概要	各町会・自治会の自主防災組織運営に対し支援し、災害時等の意識の高揚を図る。	課題																				
8		消費者展・講演会・セミナー	4月～3月	委・実	90	消費者展実行委員会	企行	行政評価	Y	Y	Y	5	5	5	5	5	5	4	5	4	5	4	4	4.7		
		協働理由	市民団体の特性を活かす	事業の概要	消費者の啓発を図るため、消費者リーダーとの協働で、消費者セミナー、消費者展等の企画・立案をし、当日の運営にあたった。	課題																				
9	地域振興課	福生七まつり	8月	委・実	37,300	七まつり実行委員会	企他	行政評価	Y	Y	Y	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5	4	4.1	入出 401,700人	
		協働理由	コミュニティの形成や展開を支援	事業の概要	実行委員会のもと、飾りつけ部会、模擬店部会、イベント部会が中心となり、ボランティア・市民を巻き込んだ形で実施した。	課題																				
10		ふっさ桜まつり	3月～6月	補・実	3,120	桜まつり実行委員会	企行	行政評価	Y	Y	Y	5	4	4	5	5	5	5	4	5	5	5	4	4.7	入出 43,400人	
		協働理由	コミュニティの形成や展開を支援	事業の概要	桜の開花に合わせて、各種のイベント等を実施し、観光客の誘致を図り、商工業振興に寄与する。	課題	補助元である市が事務局業務を行っているため、本来の協働でなく、事務局指導型の運営になってしまう傾向がある。																			
11		家庭菜園管理	4月～3月	共	234	家庭菜園使用者協力会	実行	行政評価	Y	Y	Y	5	5	4	5	4	4	5	4	5	4	4	4	4.4		
		協働理由	広く市民相互の支えあいを支援	事業の概要	市内5箇所家庭菜園を、2年間を期間として貸出し、運営を使用者の団体である協力会がおこなう。	課題																				

No	課名	事業名	事業期間	協働の形態 委=委託 実=実行委員 参=市民参加 共=共催 補=補助	事業費 (千円)	事業実施に向けて										事業実施段階					事業を振り返って			備考	
						協働の形態 委=委託 実=実行委員 参=市民参加 共=共催 補=補助	協働開始の時期	協働への呼びかけ	事業目的は明確か	目標を明確にしたか	協働相手選定の理由は明確か	① 事業の目的・目標を共有できたか	② 事業開始にあたって相互の役割を話し合ったか	③ 対等な立場で協力して計画づくりを進めたか	④ 尊重したか	⑤ 相互の自主性・自立性を十分に話し合い役割分担を明確にしたか	⑥ 進捗状況や事業に関する情報を共有できたか	⑦ 進捗修正や課題を洗い出したか	⑧ 取ったコミュニケーションが適切だったか	⑨ 情報をわかりやすく公開したか	⑩ お互いの信頼関係を築けたか	⑪ 事業の目的・目標を達成できたか	⑫ 課題と改善策を話し合ったか		平均点
12	地域振興課	ほたる祭	5月～8月	補	1,400	熊牛町会	実行	行政評価	Y	Y	Y	4	3	5	4	4	3	3	3	4	4	5	3	3.8	人出 50,000人
		協働理由	市民団体の特性を活かす		事業の概要	毎年6月中旬に行われる「ほたる祭」に対して、財政援助により支援をする。		課題																	
13	地域振興課	剪定枝等破砕機管理委託	4月～3月	委	35	グリーンクラブ福生	企行	行政評価	Y	Y	Y	5	5	5	5	5	4	4	4	4	5	5	3	4.5	
		協働理由	市民団体の特性を活かす		事業の概要	剪定枝等破砕機の貸出し、整備、保守点検等を委託し、市内農業者の農業活動に役立てる。		課題																	
14	環境課	環境フェスティバル委託	4月～3月	委・実・参	1,350	福生環境フェスティバル実行委員会	企行	行政評価	Y	Y	Y	4	4	5	4	4	5	5	5	5	4	5	5	4.6	出店団体数:39団体 来場者数:3,700人
		協働理由	市民団体の特性を活かす		事業の概要	環境月間の6月に多摩川中央公園を会場に、地球環境、自然環境へのふれあいをテーマにした市民参加型イベントを企画し開催。		課題	市民の自主的、主体的な運営を目指し、設置した分科会の機能を高める必要がある。																
15	環境課	水辺の楽校運営委託	4月～3月	委・実	1,400	水辺の楽校運営協議会	実行	行政評価	Y	Y	Y	3	4	4	5	4	3	3	4	5	5	4	4	4.0	多摩川で遊ぶ 12回実施
		協働理由	市民団体の特性を活かす		事業の概要	国土交通省の水辺の楽校プロジェクトに基づき、多摩川の水辺で子どもたちのための自然体験の場、遊び場を作る。		課題	子どもの人数に対してスタッフ人数が不足気味であるため、対応が十分にとれない恐れがある。																
16	環境課	市民環境大学運営委託	4月～12月	委	590	NPO法人自然環境アカデミー	企行	行政評価	Y	Y	Y	4	5	5	4	5	5	5	5	5	5	3	5	4.7	6回実施
		協働理由	市民団体の特性を活かす		事業の概要	「市民環境大学」事業は、市民が環境問題を学習する機会として実施。毎年テーマを決める。		課題	参加者の自立性をどのように育てるか。																
17	環境課	福生スクラムマイナス50%事業	4月～3月	実	0	チームスクラムマイナス50%協議会	企行	行政評価	Y	Y	Y	5	5	5	5	5	5	4	4	5	4	4	4	4.6	480人参加
		協働理由	広く市民相互の支えあいを支援		事業の概要	2030年までに、市内から排出される二酸化炭素を50%削減(2004年比)するという目標を達成する。		課題	協議会のメンバーが多忙な方々であり、緊急的に動かなければならない事業が発生した場合などに、小回りが利かないと感ずることがある。																
18	環境課	かんきょう通信編集会議	4月～3月	参	0	かんきょう通信市民編集委員	企行	行政評価	Y	Y	Y	3	2	4	4	4	3	5	5	4	3	4	2	3.6	2回発行
		協働理由	市民団体の特性を活かす		事業の概要	市民への環境に対する意識啓発及び環境事業等のPR.		課題	編集員の人数が少ない。																
19	環境課	湧水探検隊	4月～3月	共	0	湧水探検隊	実相	行政評価	Y	Y	Y	3	3	3	3	2	3	3	3	4	3	1	1	2.6	
		協働理由	コミュニティの形成や展開を支援		事業の概要	福生に残された湧水を保全し活用するため、調査や視察などを行なう。		課題	市民からの積極的な活動計画がなかった。																
20	環境課	愛犬クラブ	4月～3月	参	0	ふっさ愛犬クラブ	実相	行政評価	Y	Y	Y	4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	3	4	3.8	3回実施 34人参加
		協働理由	広く市民相互の支えあいを支援		事業の概要	ドッグランと犬のしつけ教室を通じて、飼い主と犬のマナーアップの啓発を行う。		課題	スタッフがなかなか定着しない。																
21	環境課	地域猫制度	4月～3月	補・共	501	福生地域ネコの会	企行	行政評価	Y	Y	Y	5	5	4	5	5	5	4	5	4	4	4	5	4.6	10地区 55匹
		協働理由	市民団体の特性を活かす		事業の概要	地域、ボランティア団体、行政の協働で、飼い主のいない猫対策を実施。		課題	モデル地区が増えていかない。多くのボランティアやサポーターが必要である。																
22	環境課	廃棄物減量等の推進	4月～3月	実	600	廃棄物減量等推進員	実行	行政評価	Y	Y	Y	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4.0	
		協働理由	広く市民相互の支えあいを支援		事業の概要	廃棄物減量等推進員と協働して、減量を推進していく。		課題																	

